



発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 震災からの復旧・復興に向けて
- 2-私の提言 日本の復興、「現場力」を信じて
- 2-研究会だより 支部の研究会〈中部〉
- 3-研究会だより 支部の研究会〈関西〉/事務局からのお知らせ/1月・2月の入会者紹介
- 4-行事案内

震災からの復旧・復興に向けて

日本品質管理学会会長 鈴木 和幸

当学会では、3月25日に東日本大震災に対する品質関連支援情報サイト <http://www.jsqc.org/O311.html> を開設した。目的は被災した企業、被災した企業とサプライチェーンでつながっている企業、そして広く日本のものづくりに関与する方々への情報発信である。“知らないことは思いつかない”、“予測できないことは防げない”、これらを原点とする非常時における当学会よりの情報発信である。

4月7日には品質関連支援マップを同サイトに掲載した。これは先の企業の分類を縦軸に、横軸に“短期的・中期的・長期的な視点”の区分を行い、品質・安全性問題の未然防止への提言マップである。是非とも活用頂きたい。また至らぬ点、追記、修正等を全会員で行ない共有財産としたい。

本稿執筆時点(4/27)において福島第一原子力発電プラントが非常事態にある状況下、この安定化をはかることが第一である。また、工程表の策定や対策立案に対し、PDPC(Process Decision Program Chart)あるいはETA(Event Tree Analysis)の十分なる活用が期待される。これらとともに有用となるのが信頼性ブロック図であり、またこれに基づくFTAである。これらは、我が国では今日までFMEAとともに開発設計の源流段階にて品質保証を行うために充分活用されてきたが、問題が生じた後の対策を検討する

ときも有用である。これらにより全体像をとらえ、強力なリーダーシップの下、1日も早い安定化が期待される。

また、現在多くの企業では、部品調達が問題となっている。車で言えば、二次、三次、四次の協力企業の方々からの供給に支障が出ていると聞く。二社購買を行っている部品も、その原材料まで遡ると同一の被災した企業の場合もあり得る。そこで既存の契約二社以外よりの代替品を使うとき、その規格適合だけでなく、信頼性を含む妥当性確認(Validation)が大切となる。当学会では、試験時間が制約されたときの温度・湿度などの加速ストレスの最適試験計画の研究など多くの研究成果がある。学からはこれらを情報提供し、産はこれらの財産を活用頂きたい。

次に、我々が為すべきことは、東京直下型地震、東南海沖地震へのクライシスマネジメントであろう。クライシスマネジメントにおいて特に大事なことは平時における有事への事前準備である。例えば、プラントであればFMEA、FTA、ETA、PDPCを事前に構築し、これに基づく非常時への訓練を行う。これと並行し、地震予知へのモニタリングと予知システムの充実[発見]、そして[影響防止]を検討する。また、高速道路、新幹線等の利用者への影響、並びにこれらのインフラ機能が途絶えたときの物流への影響の事前評価とこれに基づく事前アクションが重要である。

今回の大震災では、東北新幹線は50本以上もの列車が運行中であったにもかかわらず、安全を維持した。また被災したF社の工場の復旧の早さには目を見はるものがあった。これらをはじめとして成功事例分析をしなければいけない。この情報共有が未来への大きな安全性の作り込みと未然防止へとつながる。

今回、無念ながら未然防止が出来なかった多くの点に関しては、自戒の念を込めて検討をしていきたい。

例えば、これまで信頼性工学は、機械・電子などの分野と協力し、故障現象への因果メカニズムの解明のもとに技術的な知見を究明し、これを開発の源流につなげ品質保証を行ってきたが、今後は、上記の分野以外の土木・建築・気象・歴史など、横断的な枠組みでの研究により信頼性・安全性の確保と確証をなす理論と体系を構築して行きたい。

産学連携を特徴とする当学会、そして日本が生み出したTQMが果たしうる役割は上記以外にも数々のものがある。これらを支援サイトに寄稿下さることを切に願います。また、5月28日第95回研究発表会(於電通大)終了後、同会場にて午後6時より8時まで大震災に関しての懇談会を開催する。これから生じうるリスクへの未然防止を皆が一同に会して考えるスタート点としたい。ふるって参加下さることを願います。

● 私 の 提 言 ●

日本の復興、「現場力」を信じて

財団法人日本科学技術連盟 中島 宣彦



3月11日の東日本大震災から2ヵ月が経過しました。被災された多くの方々に、謹んで

お見舞いを申し上げ、被災地域の一刻も早い復興をお祈りいたします。

突然の巨大地震、そして想定外の大津波は、被災地に深い爪痕を残し、日本を痛めつけました。被災地の様々な社会的基盤や生産拠点が大きな打撃を受けただけでなく、原子力発電所の事故に伴う放射線漏れの被害、電力不足、農作物や工業製品への風評被害など、

複合的な危機の様相を強めています。これは、東日本のみならず、日本全体にその影響が波及し、さらには、サプライチェーンのグローバル化により、海外にも瞬く間にその影響が広がっています。海外からも一刻も早い日本の再起が期待されています。過去いくつかの苦難の時においても、極限状態での日本では、多くの企業の「現場力」に、海外から驚嘆と称賛の声が多く聞かれました。

“技術立国日本”と称されたように、日本は世界で冠たる高水準の技術力を持った現場を有しています。中でも日本の産業を支える中小企業の技術力には高い定評があります。部品・素材などの多くを東北地方の企業に支えられ

ているメーカーが多く、今回の大震災は、日本の産業の根幹にも影響を及ぼす事態となっています。日本のものづくり再生へ向け、この東北地方の中小・部品産業への支援・復旧は急務であると同時に、各社ではこれまで培ってきた「現場力」を発揮し、この難局に立ち向かい一日でも早い復興を願うばかりです。

まさに、「現場力」が復興の鍵となると言っても過言ではないと思います。教育水準の高い日本では、現場に優秀な人材が育つ土壌があります。日本の「現場力」の特徴として、小集団改善活動や多能工に見る、幅広く柔軟な役割分担と改善意欲の高さ、目標へ向けて確実にPDCAを回す計画実行性、勤勉でチームワークを重んずる意識の高さなどが挙げられます。

復興を機会に、個々人の発想を転換し、現状打破そして創造的な「現場力」を発揮し、必ずや復興を果たすものと確信しています。

支部の研究会 〈中部〉

北陸地区若手研究会

生徒・学生・若手社会人が交流する地元密着の研究の場創り

石井 和克（金沢工業大学）

中部支部北陸地区若手研究会はその活動主体を石川県、富山県を中心とした高専生、大学学部・大学院生および産業界の業務経験5年以上を有する若手社会人においている。その活動は2つのグループに分かれている。

一つは毎年3月上旬に開催している高専生、大学学部・大学院生を主体とした卒業研究や修士研究の課題およびその成果の発表会を通じた品質管理の啓蒙や動機付けと、これを介しての品質管理教育法や研究指導法の情報共有・研究の場づくりである。この場づくりは(社)日本経営工学会(JIMA)北陸支部との連携を通じて行っており、発表者にはJSQC中部支部支部長とJIMA北陸支部支部長連名の表彰状を授与し、生徒・学生の参加意欲向上を図っている。第39年度は8件の発表を17名の参加者が家庭的雰囲気です討議を行った。

もう一つの活動の場は金沢工業大学大学院ビジネスアーキテクト(BA)専攻と同大情報マネジメント研究所が連携して行っている製造中核人材育成セミナーのクオリティ

マネジメント統合特論の課題改善成果発表会と連携した実践課題の発見と解決を中心とした場である。当該セミナーの詳細は品質誌第40巻4号の13-16頁を参照して頂きたいが、情報マネジメント研究所が主催する地元製造業で5年以上の業務経験を持った若手社員を対象とする講習会とBA専攻のモジュール科目(座学、演習、実習からなる授業形式)を組合せ、若手社員と修士学生が現場の工程管理上の問題を中心に共同研究し、解決するプログラムの最終段階を利用して研究会の場を作っている。この研究会には受講者とその所属企業関係者以外にもJSQC会員を始め、地元産業界からも参加者がある。また、名古屋地区の工場長養成塾の関係者とも交流を図っている。第39年度は溶接、熱処理、塗装等の品質改善や試作品管理等の6テーマについて、26名の参加者による熱心な討議が行われた。

北陸地域のものづくりは受注生産形態の多種少量生産を得意としている。ものづくりの研究は人づくりの研究からをモットーに地元密着で、息の長い研究会を目指している。

支部の 研究会 〈関西〉

統計的品質情報解析研究会

研究会はこんな感じでやっています

主査 黒木 学 (大阪大学)

統計的品質情報解析研究会は、2008年10月に開催された関西支部役員会の承認を受けて発足した統計的品質情報技術開発研究会を改称した研究会であり、「関西QC界の活性化と発展」と「関西発のSQC技術の開発・普及」というローカルな目的を達成すべく活動を行っている。本研究会の活動については関西支部主催の研究発表会予稿集を見ていただくことにし、ここでは、本研究会の雰囲気を紹介したい。

本研究会は、少人数によるざっくばらんな議論が行えることを念頭に、学術研究者と産業界のSQC技術者とのバランス（学術3名、企業5名）を意識したメンバー構成となっており、2ヶ月に1度の割合で、平日の夕方PM6:30～PM8:30に中央電気倶楽部で開催されている。本研究会は、定刻どおりに始まるものの、時間を忘れるほど議論が白熱するため、定刻どおりに終了したことはなく、守衛の方に追い出されることもある。ほとんどの場合、場所を居酒屋に変えて、終電間際まで第二ラウンドが行われている。

本研究会では、既存SQC技術に対する新たな視点や問題点、新たなSQC技術の開発可能性について、学術・現場の両面から活発な議論が行われている。研究会への参加条件として、(1)SQCに関する基本的知識を有すること、(2)学会発表をしていただく（実際には、企業秘密の問題もあり難しい）ことがある。この条件ゆえに、企業側メンバー全員がSQC現場を豊富に経験していることが本研究会の特徴である。

しかし、この参加条件が足かせとなって高度な現場知識を必要とする議論になることがあり、主査としては役員会報告書の作成で苦労している。その一方で、（関西ならではの感覚で）好きなだけ本音で議論することができ、無知を承知でメンバーに素朴な疑問を好きなだけぶつけられることも本研究会の魅力だと考えている。本研究会はこのようなものであるが、将来的には、関西QC界の活性化だけでなく、日本QC界の発展にも貢献したいと、メンバー一同いつも考えている。

2011年1月の入会者紹介

2011年1月28日の理事会において、下記の通り正会員12名、準会員1名、賛助会員2社の入会が承認されました。

(正会員12名) ○園部 雅信 (富士フイルム) ○石野 隆弘 (トクセンエンジニアリング) ○宮崎 智彰 (三菱マテリアル) ○吉川 敏彦 (建設業労働災害防止協会) ○徳生 洋和 (イーザイ)

○田中 さとし (イトーキ) ○高橋通泰 (日立化成工業) ○大沼 寿範 (ケーヒン) ○中山 義浩 (デンソー) ○渡邊 好章 (陸上自衛隊) ○大野毅之・高梨 茂 (積水化学工業)

(準会員1名) ○伊藤 福重 (日本福祉大学中央福祉専門学校)

(賛助会員2社2口) ○統計局・政策統括官・統計研修所 ○厚生労働省 大臣官房統計情報部

事務局からのお知らせ

「JSQC選書（日本品質管理学会監修）」好評発売中

●JSQC選書11

書名：人に起因するトラブル・事故の未然防止とRCA
－未然防止の視点からマネジメントを見直す－
著者：中條武志

●JSQC選書12

書名：医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ
－人間中心の医療システムの構築に向けて－
著者：河野龍太郎

●JSQC選書13

書名：QFD－企画段階から質保証を実現する具体的方法－
編著：大藤正

判型等：四六判、並製本、152ページ

定価：1,575円（税込）→ 学会員特典価格：1,260円（税込）

申込方法：ホームページより会員専用注文書をダウンロードし、FAXにてお申し込みください。E-mailでも受付しています。

http://www.jsqc.org/ja/kanren/jsqc_sensyo.html

申込先：本部事務局 FAX 03-5378-1507 E-mail apply@jsqc.org

※書籍は請求書を同封して(財)日本規格協会から発送いたします。

2011年2月の入会者紹介

2011年2月21日の資格審査において、下記の通り正会員3名の入会が承認されました。

(正会員3名) ○荒木田 泰弘 (東邦チタニウム) ○高野 左千夫 (ダイキン工業) ○西本 圭一 (望星薬局)

正会員：2426名

準会員：77名

賛助会員：154社194口

公共会員：23口

行事案内

●JSQC40周年記念シンポジウム・
第95回研究発表会（本部）

日 時：2011年5月27日(金)28日(土)

会 場：電気通信大学

○記念シンポジウム（5/27 13：00～）

テーマ：

「グローバル化を見据えたモノづくりと人づくり」

プログラム：

開会挨拶 鈴木和幸氏

（JSQC会長、電気通信大学 教授）

基調講演

「2020年日本創生と企業の役割」

桜井正光氏

（㈱リコー 代表取締役会長）

特別講演(1)

「日中ビジネス体験談」

巖 浩氏

（イーピーエス㈱ 代表取締役社長）

特別講演(2)

「Japan vs Japanese—TQMでの挑戦！—」

狩野紀昭氏

（東京理科大学 名誉教授）

パネルディスカッション

パネルリーダー：

中條武志氏（中央大学 教授）

パネルメンバー：

大沼邦彦氏（日立オートモティブ

システムズ㈱ 代表取締役社長）、

巖浩氏、狩野紀昭氏、鈴木和幸氏

記念懇談会（5/27 18：00～：無料）

○第95回研究発表会（5/28 9：30～）

チャリティー・チュートリアル

9：30～開催挨拶

9：45～10：30

第1会場：

「ソフトウェアテストを軸としたソフトウェア品質の改善」

西 康晴氏（電気通信大学）

第2会場：

「シミュレーション実験における実験計画法の活用」

石井 成氏（名古屋工業大学）

10：35～11：20

第1会場：

「JIS9005/9006に基づく持続的戦略実現のための品質マネジメントシステム設計の方法論」

金子雅明氏（青山学院大学）

第2会場：

「ケア決定プロセスモデルの応用による問題解決法の開発」

加藤省吾氏（東京大学）

12：30～17：50 研究発表会（5会場）

参加費：

記念シンポジウム

会 員 5,000円（締切後 5,500円）

非会員 10,000円（締切後 10,500円）

準会員 2,500円 一般学生 3,500円

チャリティー・チュートリアル、研究発表会

会 員 6,000円（締切後 6,500円）

非会員 12,000円（締切後 12,500円）

準会員 3,000円 一般学生 4,000円

研究発表会のみ

会 員 4,000円（締切後 4,500円）

非会員 8,000円（締切後 8,500円）

準会員 2,000円 一般学生 3,000円

申込方法：

ホームページからお申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

●第110回講演会（関西）

テーマ：こだわりのものづくり

～京都の企業に学ぶ～

日 時：2011年6月6日(月)14：00～17：20

会 場：中央電気倶楽部 5階ホール

プログラム：

講演①：「月桂冠～374年ものづくりへのこだわり～」

川戸章嗣氏（月桂冠㈱）

講演②：「オムロンの「ものづくり」へのこだわり」

石田 勉氏（オムロン㈱）

参加費：会 員 3,000円 非会員 4,000円

準会員 1,500円 一般学生 2,000円

※当日払い

申込方法：

関西支部事務局までお申し込みください。

●第352回事業所見学会（本部）

開催日決定！

テーマ：ニチレイフーズの品質保証—原料のこだわり、工程のこだわり—

日 時：2011年6月13日(月)13：30～15：50

見学先：㈱ニチレイフーズ 船橋工場

定 員：30名

参加費：会 員 2,500円 非会員 3,500円

準会員 1,500円 一般学生 2,000円

※当日払い

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAX

にてお申し込みください。

●医療のための質マネジメント基礎講座（医療の質・安全部会）

—一日2回、計14回開催—

会 場：第1回～第12回

早稲田大学西早稲田キャンパス

62W号館1F大会議室

第13回・第14回

東京大学キャンパス

プログラム：

各日9:30～12:30／13:30～16:30

第1回・第2回 6月11日(土)

質マネジメントの基礎／

KYT（危険予知活動）と5S活動

第3回・第4回 6月12日(日)

POAM（業務プロセスに注目した

与薬事故分析手法）／

インシデント分析と対策立案

第5回・第6回 7月16日(土)

医療安全管理システム／

転倒転落事故の防止

第7回・第8回 7月17日(日)

PFC（Process Flow Chart）を用いた

医療プロセスの標準化(1)／(2)

第9回・第10回 8月27日(土)

問題解決法と改善の進め方／

医療における文書管理

第11回・第12回 8月28日(日)

内部監査の実際／

QMSの導入・推進の実際

第13回・第14回 9月18日(日)

患者状態適応型パスシステム

(PCAPS)の基本(1)／(2)

参加費：

部会員 1回 5,000円/通し 60,000円

会 員・非部会員 1回 7,000円/通し 84,000円

非会員 1回 15,000円/通し 180,000円

詳細：ホームページをご覧ください。

<http://www.jsqc.org/ja/division/med/iryuu.html>

申込方法：部会事務局までE-mailまたは

FAXにてお申し込みください。

E-mail：kisokouza@tqm.mgmt.waseda.ac.jp

FAX：03-3232-9780

●中部支部30周年記念（第111回）講演会

日 時：2011年6月28日(火)13：30～16：35

【懇談会】17：00～18：30

会 場：刈谷市総合文化センター

【懇談会】シャインズ

プログラム：

講演①：「イノベーションによる顧客価値創造」

長田 洋氏（東京工業大学）

講演②：「サステナブルモビリティ

社会の実現と日本独創」

奥平総一郎氏（トヨタ自動車㈱）

詳細：ホームページをご覧ください。

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本 部：E-mail：apply@jsqc.org

中部支部：E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：E-mail：kansai@jsqc.org